



6月下旬、7月初旬の雨とその後の暑さで、どの品種の結果枝(今年の葡萄をならせる枝)の伸びも過去にないほどの勢いです。勢いのある枝には大きな葉が茂り、このシーズンの圃場は放っておくと暗く、風通しが悪くなってしまいます。そのため、ぶどう生産者は「夏管理」に時間を費やします。主芽から出る副芽を整理したり、枝の先の余計な部分を切り落としたりする作業により十分な養分がぶどうに行き渡るようになります。また、風通しを良くすることは病気の発生の予防にも繋がります。しかし、果皮のはじけやすいコンコードぶどうは明る過ぎる圃場で育てられると、収穫の直前に裂果しやすくなる傾向にあります。そこで、生産者達はぶどうにとって丁度良い加減の葉の茂り具合を見極めながら夏管理を進めていきます。中村さんは「葡萄と話をしながら、相談しながらやるんだよ。」と言って笑ってらっしゃいました。

取材/原料 果樹試験課
青沼 豊晶

7月25日の作業の様子

撮影場所: 信州桔梗ヶ原 中村鐵雄さん圃場



摘房作業: 結果枝から余分な果房を間引く作業。
1本の結果枝から1~2房。つけすぎると糖度が上がらない。



収穫期(9月中旬)のコンコード

アルプス2008新酒『旬醸』
コンコード赤・ナイアガラ白
容量:600ml 価格:1056円(税込)

店頭発売:10月初旬予定

新酒2008『旬醸』のお届けまで
約2ヶ月程お待ちください。

